

2017年度 卒業生答辞

桜の蕾も膨らみ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。

本日、私たち卒業生一同は、晴れて卒業式を迎えることが出来ました。この学生生活最後となる良き日に、お忙しい中、ご臨席くださいました先生方、並びに、ご来賓の方々に心より御礼申し上げます。私たち卒業生のためにこのような盛大な卒業式を挙行いただきましたこと、また、先ほどは兼子学長より温かく、そして励ましのお言葉をいただけたことに深く感謝いたします。

4年前の4月、私は大学生活への期待と、新しい環境に馴染めるかという不安という少しのドキドキが入り混じる中、入学式を迎えました。

あの頃の私は、まだ自分に甘えて、周りに責任を押し付ける、無知な子どもでした。しかし、決意するのも、行動するのも、そしてやめるのも自分次第の大学生活や、個人を尊重する部活動を経験するなかで、今ではどんなことにでも前向きに取り組む姿勢を身に付けることが出来たと思っています。

勉学に関しては、あたり前のことかもしれませんが、私は1年次に「どんなに部活動で疲れていても勉学を疎かにしない」という目標を立て、勉強に励みました。その結果、成績は自分でも満足いくものでした。しかし2年次になり、気の緩みから目標を疎かにしてしまったところ、妥協することに慣れてしまい、成績も下降の一途を辿りました。

この経験から、私は努力が報われることを体感し、自信と可能性を見出すことが出来た一方で、私自身の意思の弱さを痛感し、妥協の怖さを知りました。

また、大学生活の大半を費やしてきた女子サッカー部の活動では、実力のある多くの部員が所属していることもあり、私自身試合に出るのも難しい状況でしたが、互いに励まし合い、時に良きライバルとして、共に切磋琢磨してきた時間は私の宝となりました。

さらに私は選手としてだけでなく、大会に出場するための事務処理や日程調整、学連としての活動、ある大会の学生実行委員長として一つの大会を作り上げるなど様々な経験をさせていただきました。月に何回も会議や打ち合わせがあり、練習に参加できなかつたり、正直、はじめはやりたくないと思ったことも多々ありましたが、断れない性格もあり全て引き受けていました。

そのお陰で、サッカーの裏方の世界や社会人の世界など様々な世界を知り、その中で多くの出会いや学びがありました。自分が集団の中で役割のあること、それを見つげられたことへの喜び、どんなことでも必ず楽しめる要素があると知れたこと、そして私の将来の選択を決定づける経験させていただいたことに感謝しております。

これから私たち卒業生は、期待や夢を胸にそれぞれの路へ進んでいきます。新たなスタートです。でも、人生、楽な路はどこにもないと思っています。これまで生きてきた以上の月日を戦っていかなくてははいけません。

私は「迷ったときは出発点に戻れ。」という言葉聞いたことがあります。この先、辛く厳しい現実が立ちはだかることや、挫けそうになることがたくさんあると思います。そんな時は、出発点である神奈川大学を思い出し、「質実剛健」「積極進取」「中世堅実」という建学の精神や、仲間と過ごした楽しい日々、お世話になった方々への感謝、今感じている新たなスタートに対する期待感や夢を力に変えて、乗り越えていきたいと思っています。

私はまだ、自分が思い描いた理想の人間にはなれていないと思います。しかしここまで元気に大きくなりました。これからも、いばらの道を歩みながら、少しずつ大人に、人として成長していけたらと思っています。

この4年間を振り返ると、多くの喜びや困難、そして出会いがありました。時に悩み、もがきながらも今日この場に立っていられるのは、私たちをご指導してくださった先生方、日々の大学生活を陰で支えてくださった職員の方々、共に笑い、励まし合い、大学生活を彩ってくれた仲間、そして何があっても育て、支え続けてくださったご父母の方々、並びにご多忙の中ご臨席くださいました皆様に、卒業生を代表して感謝の言葉を述べさせていただきたいと思います。

この4年間、そして今まで、私たちのために本当にありがとうございました。

以上、卒業生を代表して、お別れとお礼の言葉とさせていただきます。

2018年3月19日

卒業生代表 経営学部国際経営学科 篠崎 希